

# 稲枝中学校区における 地域運動部活動実践研究について

滋賀県彦根市



# 1. 事業開始に至った経緯について

---

○滋賀県より依頼を受け、R3・4年度稲枝中学校区が  
文部科学省指定の地域運動部活動推進事業の実践研究校となる

## ～稲枝中学校を拠点校とした背景～

部活動の顧問と連携しながら活動する地域指導者が複数名いた。  
(スポーツ少年団から引き続き指導していた者、未経験顧問のため  
校長からの依頼があった者、部活動指導員など)

## 2. 実践研究の概要

---

### 【稲枝中学校について】

令和5年度 全校生徒 **275** 名 (R5.5.1現在)

全学年**3**学級 特別支援学級**3**学級 合計**12**学級

### ○運動部活動所属数

軟式野球 22名 男バスケットボール 18名

女バスケットボール 16名 剣道 11名

女バレーボール 18名 男バドミントン 41名

女ソフトテニス 23名 卓球 49名 計**198**名



## 2. 実践研究の概要

### 【実施主体】

稲枝地区学校支援協議会

(1) コーディネーターについて

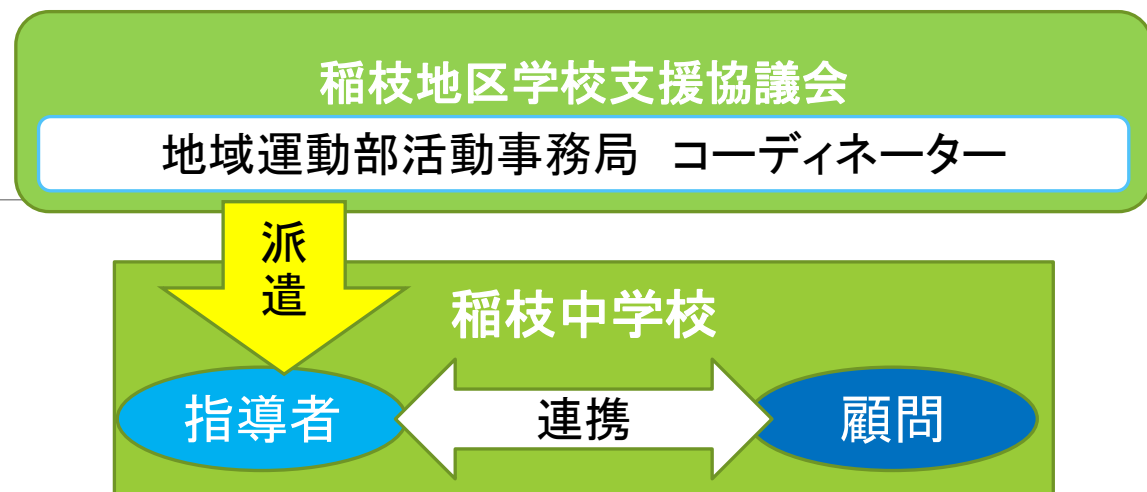
地域の実情や学校部活動に精通した人材を配置

(2) 指導者について

コーディネーターを通じ、各種目の地域指導者に依頼

(3) 学校部活動との連携について

平日部活動を担当する顧問と連絡を密に取りながら活動



# 3. 実践研究における成果と課題について

---

## (1) 教職員について

全体的に部活動指導にかかる業務が削減された

○複数顧問による同時指導から

一人ずつ交代での指導が可能になった

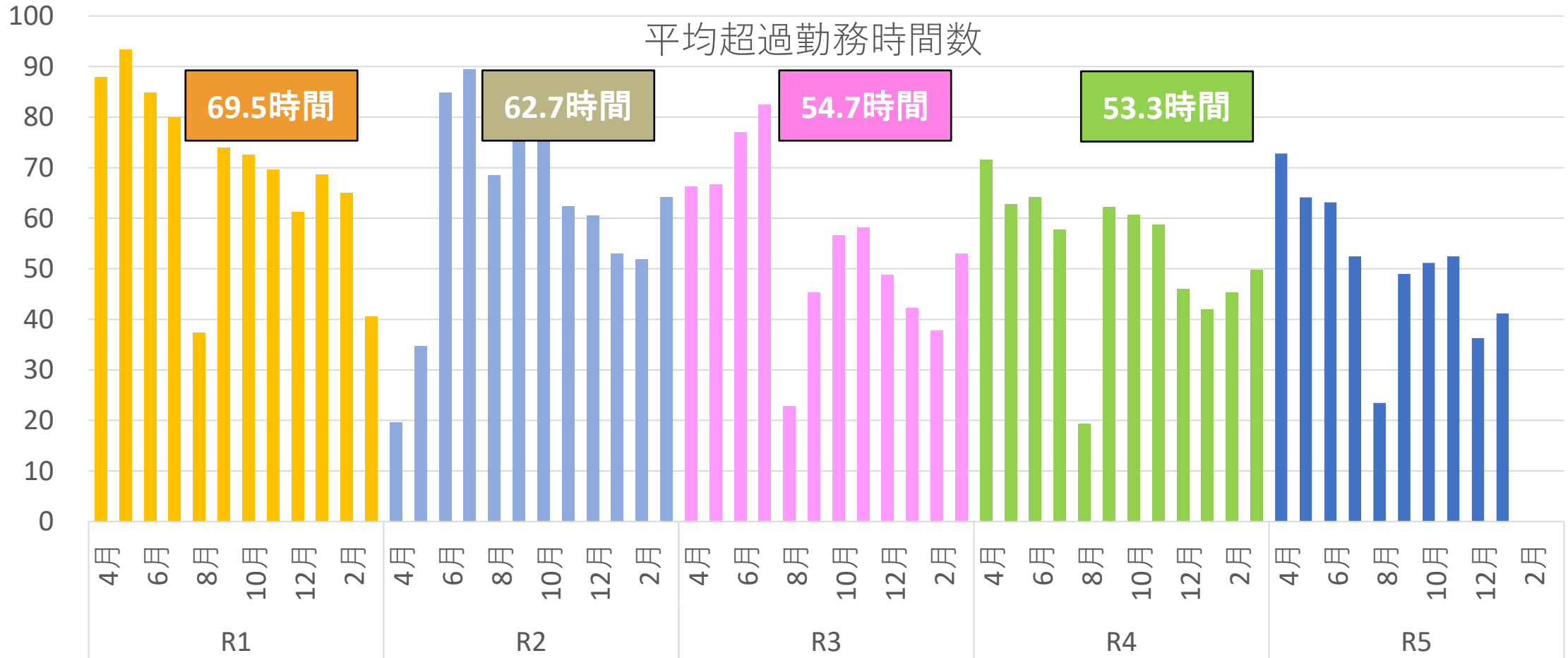
○大会前などを除いて、地域指導者中心の指導も可能になってきた

○超過勤務時間の減少

実施前(令和元年度)	月平均70時間
実施後(令和4年度)	月平均53時間

# 3. 実践研究における成果と課題について

## ・教職員の超過勤務時間が減少

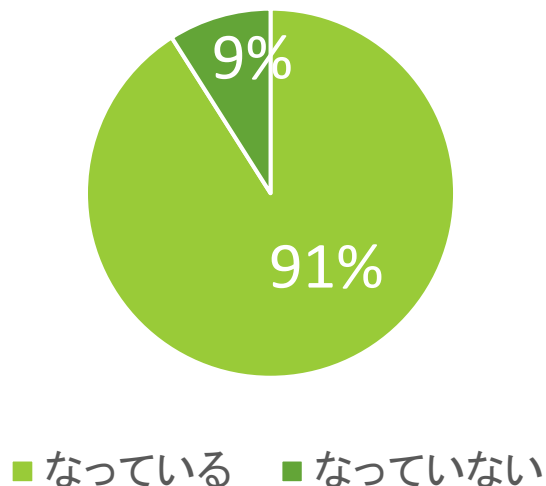


# 3. 実践研究における成果と課題について

## (1) 教職員について

時間的な負担が軽減されたと感じている教員が多い

休日の部活動は時間的な負担になっていますか



「自分の時間が持てるようになり大変ありがたい。」  
「地域の指導者がいることで多くの大人に見守られているからよい。」  
「私自身自分の地域でスポーツ指導をしてみたい。」  
「継続的に進めていくべきである。」

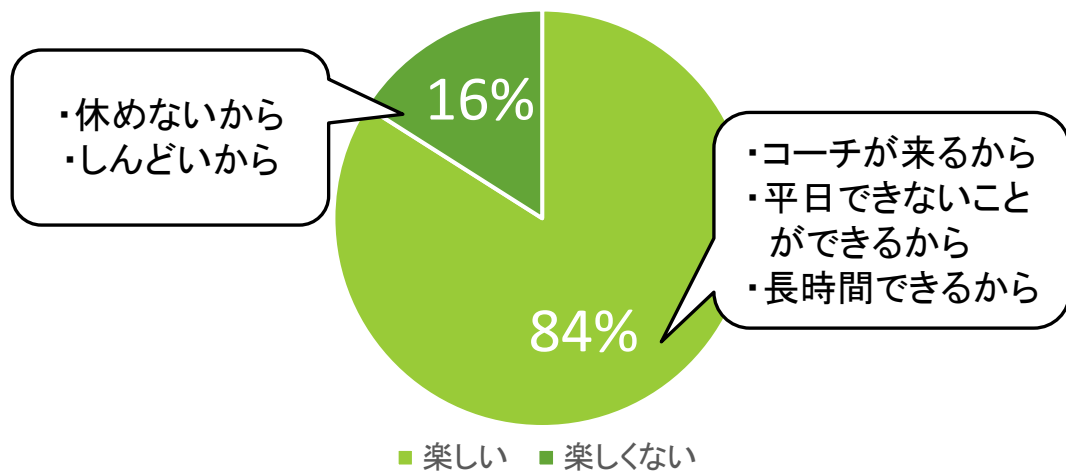
「平日部活動と休日地域クラブの線引きが難しい。」  
「技術指導していただけることはありがたいが地域の指導者にすべてを任すことはできにくい。」  
「地域指導者と協力体制をつくることへの精神的な負担が大きい。」

# 3. 実践研究における成果と課題について

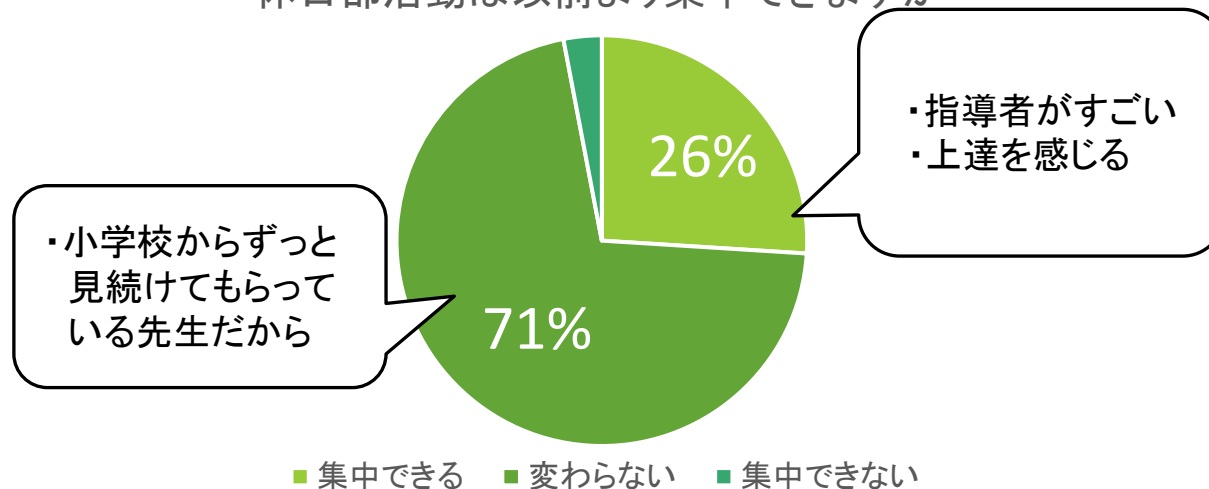
## (2) 生徒について

従前より外部指導者による指導を行っていたため、地域移行への抵抗は少なかった

休日の地域部活動は楽しいですか



休日部活動は以前より集中できますか



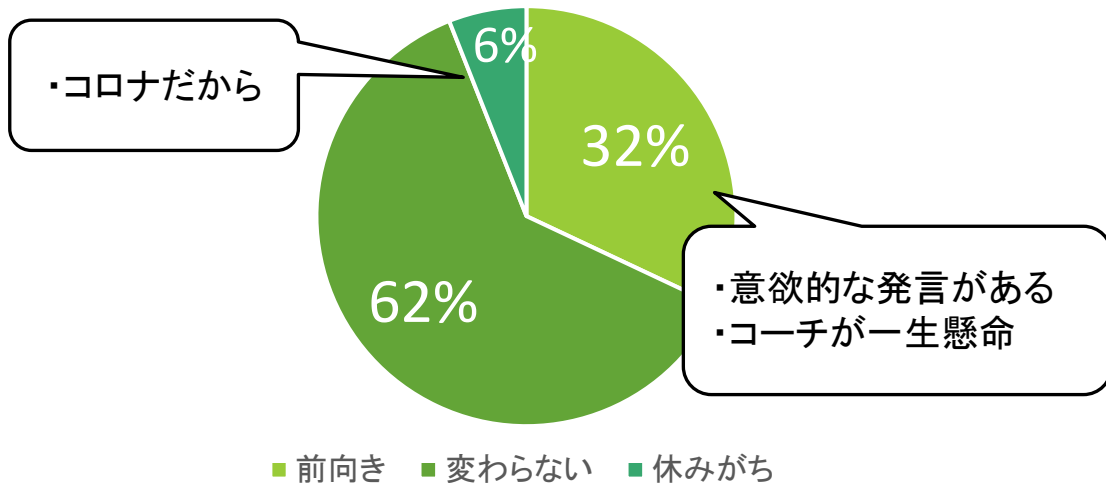


# 3. 実践研究における成果と課題について

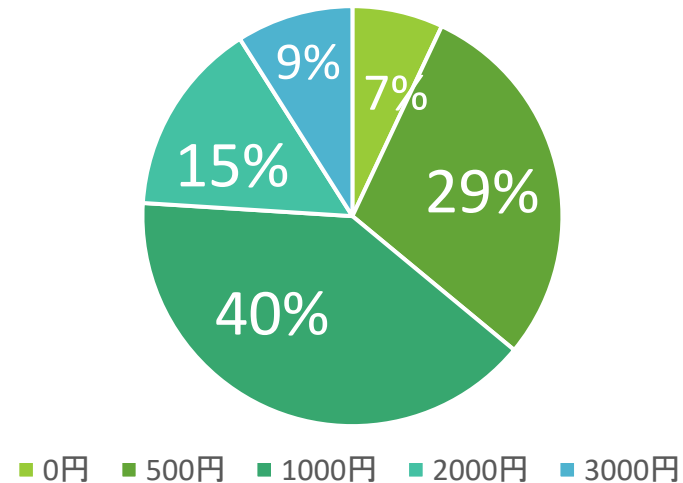
## (3) 保護者について

肯定的な意見が多く、受益者負担にも反対意見はなかった

以前と比べて、休日の部活動に前向きに取り組んでいますか



指導者への謝金を含む月謝について、いくらまで負担いただけますか



### 3. 実践研究における成果と課題について

---

#### 【課題】

部活動地域移行には、

- ★各部活動の指導者の確保が必要
- ★運営を任せることができる受け入れ母体が必要
- ★部活動の固定概念「=学校の仕事」からの脱却が必要



学校単位だけでなく、種目ごとの休日の文化・スポーツ活動を行っていく